

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570102956		
法人名	有限会社 サカイコーポレーション		
事業所名	グループホーム楓		
所在地	宮崎市大字郡司分甲1570番地1		
自己評価作成日	平成24年5月2日	評価結果市町村受理日	平成24年6月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4570102956&SCD=320&PCD=45
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成24年5月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・静かな環境・おちついた雰囲気・家庭的な雰囲気、ゆったりとした時間が流れている。 ・職員の若返りにより、はつらつとした職場環境(利用者の生活環境の若返り) ・食事は、季節のものを採り入れ、肉・魚・野菜など地域の商店より配達してもらい新鮮でおいしい物を食べて頂いている。 ・安全面・衛生面の徹底がされており、安心・安全の生活が出来ている。 ・季節の行事(屋内・外)が行われている。 ・職員同士、注意し合い、助け合って仕事が出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念に基づいたサービスの提供に力を入れ、職員全体が理念を深く理解し、日々の支援につなげることに努め、職員間で振り返り、確認するなど、6つの理念の実現に努めている。職員は、代表者の理解の下、利用者家族の協力も得ながら生き生きと仕事をし、利用者は安心して伸び伸びと生活を楽しんでいる。地域での認知症講座などを通して、福祉の中核起点としての機能があり、ホームで問題が生じた場合でも、運営推進会議で検討し、家族や地域と一緒に解決にあたる体制ができています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に6つの運営理念を掲示している。その一つに「地域に馴染んだサービスの提供」を掲げ、日々努力している。全体会などで唱和し、意識の高揚を図り、介護に役立っている。パンフレット等に記載し、表明している。	会議で話し合いを重ね、職員全員が理念を理解している。日々の支援で理念が実践できているか振り返っている。特に、「地域になじんだサービスの提供」に取り組み、地域の人々への接し方、声かけを常に心くばりしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩時には挨拶を欠かさないようにしている。消防訓練等の行事にも参加して頂いている。自治会の要請で認知症講座を行い、交流を深めている。地域の夏祭りでは、ホームの庭を子供神輿の休憩所に提供している。	散歩の時に近所の人と会話したり、自治会の要請で認知症講座を行っている。地域の夏祭りの際に、子供みこしがホームに立ち寄り、利用者と交流するなど、地域の住民としての交流がある。	地域の子供会との交流、小・中学生の体験学習の受け入れ、自治会活動への参加などを通し、地域で必要とされる活動や役割をさらに積極的に担っていく取組を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの認知症の相談を受入れる準備がある。ボランティアの受け入れや介護実習施設として、認知症の専門知識を広める努力をしている。キャラバンメイトを2名受講しているので、認知症の理解を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね、2ヶ月に一度のペースで開催し、サービスの資質向上について検討している。困難事例などの相談や行事・ケアについての実施状況を報告をしている。行事イベントなどの成功につながった経緯がある。	ホームの現状を明らかにして、委員から意見や質問をもらい、有意義な会議になっている。会議での情報交換から、ボランティアの受け入れ、避難訓練や行事への参加などを実現している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課との情報交換を行い、いろいろな相談に乗っていただいている。その他、関係機関などへの挨拶・連絡・相談を欠かさないようにし、サービスの維持向上に役立っている。	市に出向き、ホームの状況を報告し、意見や助言を聞き、相談に乗ってもらっている。連携が深まるよう積極的に努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関にセンサー、夜間転倒が想定される方へのコールマットなど、日々身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ホーム内・外の研修会参加や身体拘束廃止マニュアルを確認し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する勉強会を実施し、職員全員が共有・認識できるよう努めている。日々のケアの中で振り返り、職員間で確認している。特に利用者が抑圧を感じないよう、言葉づかいや動作には配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	いつでも職員が閲覧できるように、高齢者虐待防止マニュアルを掲示し、内部研修などで職員の意思統一を図っている。外部研修にも積極的に参加し、常に理解を深めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルを作成し、内部研修などで取り上げ、全職員に理解を深めている。社会福祉士などの有資格者がいるので、権利擁護について、いつでも対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学から契約まで、各担当が解り易く説明している。契約時に何度も御家族・本人と面会をし、運営方針などの話を重ねたうえで、利用して頂いている。疑問点などあった場合には、いつでも対応できる体制を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の総会では、意見交換などを行っている。家族会会長が中心となり、行事などに参加して頂き、顔見知りの関係を作り、相談ごとを話せるよう努めている。個別に担当者会議を行い、意見の反映に努めている。	家族会の意見や要望をホームが聞く場が設けられており、それを運営に反映している。個別に家族と話し合う場を定期的に設け、利用者や家族の意見、要望を積極的に聴く体制がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者・管理者は、運営内容や悩み事などを聞き、話やすい環境づくりに努めている。いつでも意見を取り入れ運営に反映している。施設内会議・研修には、必ず運営者が参加し、職員の話をもとめ、運営に役立てている。	職員は、意見や要望、提案を率直に言える環境になっている。代表者は、会議や研修には必ず参加している。また、頻りにホームに来て職員と交流し、利用者や職員の状況を把握している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員配置についても、余裕を持って配置している。現在、所持資格や勤務努力などを考慮した上で、処遇改善交付金を支給している。勤務表作成時には、希望を出来る限り反映できるように作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員同士で、業務の中でもお互いに認知症ケアの能力を高めあっている。内部研修を月に一度以上行うほか、外部研修、見学を取り入れている。また、資格取得など、積極的に資質向上に繋がるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種協議会に参加し、情報交換を行っている。交流会などに積極的に参加し、ネットワークを広げるよう努力している。他施設との見学・実習などを通して情報交換をし、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に、お茶やレクリエーション等に参加して頂き、何度か雰囲気味わって頂くこともある。申し込みから利用までに、何度も本人・家族の話や意向を聞き確認し、本人はもちろん御家族との関係作りにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前には、御家族と何度も話を重ねあい、サービスを導入している。生活状況を電話や手紙で伝えたり、面会などを通して生活の安定ぶりを見てもらい、御家族の安心と信頼に繋がるように日々努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の意向をよく聴取し、利用の効果と限界を見極め説明し、適切なサービス利用も検討するようにしている。説明は、正確な情報、知識に基づくよう関係機関や社会資源との連携を怠らないようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方から習わし、料理の作り方・味付けなどを学び、教え合い、同じ空間を共にすることで、よい信頼関係が築けている。時間を共にする中で、介護はもちろんのこと、生活支援の立ち場で支えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの中で、家族との絆を大切にしながら情報交換をし、共に支えあう関係づくりに努めている。生活の中で、対応が困難な時など、家族の協力を得ながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族と一緒に、趣味のクラブや買物、墓参りなどの外出・外泊を積極的に支援している。友人などの電話・手紙の代筆の支援を行い、面会の場合は椅子やお茶を進めるなど、よい雰囲気であるよう支援している。	毎週カラオケ教室に通い、発表会には職員を招待する利用者があり、利用前からの習慣が継続できるよう支援している。なじみの知人が来訪された折にはお茶を出し、声かけして、関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルなどが発生した時は、お互いの人格を傷つけないように配慮している。集団や個別でも楽しめるように、常に支援している。食事やTVを観る時の席は、よりよい関係が築けるよう配置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人の状況に応じて、面会や他施設職員と情報交換を行っている。アフターケアの支援体制を整えている。御家族とも、断ち切らない関係作りを心掛けている。退所された方の御家族が畑作りの手伝いをされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	運営理念の「常に和やかに笑顔のある介護」に立ち戻るように、常に心掛けている。御家族の意向を聞きながら、本人本位であるように利用者の表情・言動から気持ちを拾い上げ、サービスに活かしている。	センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を活用している。生活歴を把握し、家族からも情報を得て、日々のふれあいの中で本人の希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用当初に、生活歴を家族や利用者にも直接うかがっている。そして情報提供や記録などでも把握している。その人の生活を理解し、それに応じたケアなどを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、サービスを提供しながら、その反応などを含めて客観的に判断している。医療的にも、心身の状況を的確に把握するようにしている。介護記録で、一日の現状が理解出来るように工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を導入し、家族とのサービス担当者会議やモニタリングを行っている。1ヶ月に1度以上、ケア担当者会議を行い、全職員で情報を共有している。情報の共有と意見交換を行い、介護計画を作成している。	センター方式を活用して、利用者一人ひとりの「その人らしい暮らし」を目標に、ケア担当者会議で家族の思いや意向を聞いている。職員全員でモニタリング、意見交換を行い、共通認識を持ち、利用者の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にセンター方式の気持ちシートを用いて、利用者の医療・介護両側面からわかるように工夫し、全職員が情報を共有してケアに活かせるようにしている。個別ケア報告を担当者が評価をし、見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	移動図書館や各種ボランティア、実習生などの社会資源の受け入れなど、新しい刺激で利用者の趣味、娯楽の幅を広げていくようにしている。緊急時の対応等は、職員も病院対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア、移動図書館、介護実習などを積極的に受け入れ、日々の利用者の生活の刺激になるように努めている。消防などの各機関に消防訓練などに来てもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、利用者・御家族の希望を優先し、医療機関の話を進めている。看護師などより、常にかかりつけ医と情報の共有をかかさないうり取り組んでいる。安心して適切で納得のいく医療が受けられるよう支援している。	利用者や家族の意向を優先したかかりつけ医になっている。通院に家族が付き添う際や往診の時は、利用者の状況を書いた文書を用意している。24時間対応する医療機関と密接な関係ができており、利用者が適切な医療を受けられる体制になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職も介護スタッフの一員として勤務し、日常の変化にも対応できる体制にしている。健康面での変化は、すぐに全職員へ周知させ、医療や関係機関との連携とともに、適切な対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、必ず職員が面会に行き、医療関係者の方と密に連絡・連携を図り、利用者・御家族が安心して治療できるように心掛けている。病院などに報告などを欠かさないうり、情報交換がスムーズに行くよう信頼関係を結べるよう努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の時から、重度化・終末期の対応について家族と方針を共有している。利用者・御家族に当ホームでケアの出来ることを説明し、ホーム全体でアフターケアも含め、いろいろな情報を共有して支援している。	利用開始時に、本人や家族と話し合い、方針を共有している。利用者の状況が変化した際には、早期に話し合いを持ち、情報の提供等の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、見やすい所に置いている。事故発生時の連絡場所が明示してある。看護師や応急手当普及員を配置し、内部研修などで定期的に急変時の研修を行い、職員の意識の向上を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を配置し、火災・避難訓練、津波・地震避難訓練などを計画実施している。消防などの実地指導を受けている。非常災害時の避難訓練を消防団や近隣の方にも声をかけ、協力を保てるよう努力している。	消防団や近隣の協力を得て、避難訓練を実施している。隣接地での火災の際には、消防団、運営推進会議の委員、近隣等の協力が得られ、職員の誘導で利用者も的確に避難できており、避難できる方法を身につけ、地域との協力体制も確立している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営理念の一つに「人格を尊重する介護」を掲げ、日々意識の向上を図っている。人格を尊重することを心掛け、排泄・入浴時など、常に誇りとプライバシーを確保できるようにしている。	入浴や排せつの際のドアの開閉、日々の声かけなど、常に利用者の人格を尊重することに心がけ、支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から、思いや希望をすばやく察知出来るよう、利用者の要望の把握に努めている。職員と利用者の会話の時間を常時確保し、すみやかに支援できるように、利用者の要望の把握に日々努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に応じたペースで、食事時間、入浴時間の調整など、毎日の暮らしをゆっくりと希望にそって過ごしてもらうようにしている。趣味や運動など、その人らしく満足できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃り・化粧についても、本人の好みを重視している。日常や外出など、目的に応じた服装が出来るようにしている。常に、身だしなみや適切な服装を着用するよう支援している。訪問理・美容店が来所され、満足されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中には、クラシックや歌謡曲など、その日のホームの雰囲気に合わせたBGMを流している。家庭菜園で収穫した旬の食材などを利用し、季節や行事の話をしながら、食事を楽めるようにしている。	下ごしらえや盛りつけを利用者と一緒に行っている。菜園でとれた野菜を食材にしたり、利用者の得意料理や利用者の希望の献立にしたりと、臨機応変に対応している。職員も同じテーブルを囲み楽しく食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ほぼ全量摂取されている。栄養バランスを考え、利用者ごとに食事量や水分量について考慮し、対処している。繊維類を中心とした高タンパク質の食事を心がけている。定期的に体重測定を行い、記録・観察している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前に、唾液腺マッサージ・口腔体操、食後に、ハミガキ・うがい・口腔内の確認をしている。夜間は、義歯の消毒(ポリドント)をし、口腔清潔を心がけている。歯科医との連携も取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	心よい排泄ケアに心掛けている。排泄パターンを記録にとり、能力をふまえた上で、季節や状況に応じた気持ちよい排泄が出来るように支援している。残存機能を大切にしたいケアに取り組んでいる。	さりげない誘導でトイレでの排せつができるよう支援している。利用開始時におむつを使用していた利用者も、パターンを把握して支援することで、排せつの自立につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録を活用し、常時体調観察を行っている。看護師と相談の上、適切な支援を行っており、繊維物を多く取り入れた食事を提供し、排泄を促している。水分を積極的にとって頂けるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回程度の基本的な目安はあるが、入浴はほぼ毎日行っているため、本人の希望を優先できるような体制をとっている。職員とのコミュニケーションの場となり、楽しんで頂いている。	週3回の目安は設けているが、本人の希望や状況に合わせていつでも入浴できるよう支援している。介助する職員は、利用者とは個別に触れ合う場にもなり、利用者がゆったりとくつろいで入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の方の体調と生活習慣などを職員が観察し、体調にあわせて居室にて休んでいる。毎日交替で、布団の天日干しとシーツ交換を行い、居心地の良い居室作りと睡眠が出来るように環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が必ず、日付・名前を一人ずつ確認・与薬している。看護と介護職が連携を保ち、情報の共有をしている。薬情報はいつでも全職員が見ることが出来、服薬や誤薬、副作用についての研修も定期的に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯・レクリエーション時など、一人ひとりがその人らしさが引き出せるような支援をしている。特に、社会的役割の満足さを重視することを意識して、介護・支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体力に応じた、外出の支援、散歩、花見、家庭菜園の収穫などを行っている。家族にドライブや墓参りへの協力をお願いし、常時外出の機会を作っている。さらに、同法人のグループホームへの交流会を再開していきたい。	散歩を日課にしており、時には訪問された家族も一緒に、季節には蛍が観られる川縁や近隣を散歩している。個々に応じた外出ができるよう家族へ働きかけたり、利用者の希望を聞いてドライブするなど、支援している。同法人のグループホームとの交流会の計画も進んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族より、おこずかいを預かっているの で、何時でも使えるということを利用者に話 をして理解して頂いている。おこずかい帳を 作成し、御家族に確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	年始の挨拶や暑中見舞い、その他手紙な ど、自由に書いて頂いている。また、電話に 関しても、御家族の協力を得て、いつでも電 話が出来るような体制にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴 室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をま ねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がな いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、 居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン等を使って、光などを調整し、居心 地のよい空間作りに取り組んでいる。居室 は、個室で生活リズムとプライバシーを重視 している。室温・湿度・騒音なども十分に配 慮している。花や装飾品などで季節を感じら れるようにし、安心と安らぎをめざしている。	室温やBGM音量を細かに配慮して、心地よく 過ごせる空間になっている。食事や日課を済 ませ、テレビ鑑賞したり、利用者同士や職員 と会話が弾むよう、ソファを状況に合わせて 配置を工夫するなど、適切な支援をしてい る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工 夫をしている	ホーム内の要所に数種類のソファや椅子 を配置し、くつろげる空間作りに心掛けている。 リビングには、テレビ・ソファなどを置 き、利用者同士が共に話ができ、楽しい時 間を過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活か して、本人が居心地よく過ごせるような工夫をして いる	入所時に、馴染みの物を持ってきて頂ける ように説明をしている。個室で利用者の使い 慣れたもの、お気に入りの調度品や家具な どをもってきてもらい馴染みのものを使用で きるように支援している。	利用者がなじみの物や家族の心づくしの物を 持ち込み、居心地よく生活できるよう支援し ている。家族が持ち込んだ野菜ポットや生花を 利用者が楽しめるよう、一緒に支援してい る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかるこ と」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	利用者の方々に安心・安全に過して頂くた め、トイレやお風呂の表示や照明なども、分 かりやすく工夫している。利用者ごとの残存 機能を生かした支援をしている。		